■第２回富田林市地域福祉推進委員会　議事録

日　時：令和３年８月30日（月）13時30分～15時30分
場　所：オンライン会議
次　第：１　議題
（１）市民アンケート結果報告について
（２）第３期地域福祉計画の総括について
（３）校区交流会議の開催状況について
（４）第４期地域福祉計画（素案）作成に向けて

会議の経過
〇開会あいさつ
〇オンライン会議における確認事項の案内
〇配布資料の確認
〇17名中17名出席につき会は成立

【Ａ委員長】
・大変な状況だが、新たな委員になっていただいた方にはよろしくお願いしたい。実際のところ誰かが全部何かを分かっている訳ではなく、それぞれの立場でいろいろ考えながらつくっていくのが計画だと思っている。これからの富田林をどうしようかといういろいろな立場からの意見を活発に出していただき、中身のある議論ができればと思うのでよろしくお願いしたい。
・では議案１について説明を。

〇事務局より市民アンケート結果報告について資料説明（PDF）

【Ａ委員長】
・先に実施されたアンケートの結果報告だったが、何か質問や意見等あるだろうか。
・全般的な点では市民の回答率が若干下がっている点や、回答者の年齢層については先に確認したのだが、こうしたアンケートでは高齢者の回答が多くなかなか市民全体の範囲になっていないということが多いが、今回は前回より少し若い人も回答しておりバランスは保たれていると思う。
【Ｂ委員】
・アンケートについて地域福祉活動についての関心の有無の話があったが、われわれの町総代会、町会長の大きな塊の組織だが、現実に活動家がいない。活動家の大きな年齢層が70～80歳とのことで後期高齢者が多い。もう少し回答を求めるのなら年齢層を下げて配布し意見を聞いてはどうかと思う。

【Ａ委員長】

・まず、市民アンケートなので全体を対象に抽出しているが結果的に返ってくるのがこうした傾向になるので、それが分かっているのならもう少し若い層から意見を聞ける仕組みをつくってはどうかという意見だと思うがその通りだと思う。

・今回のアンケートはアンケートとして確認したうえで、地域福祉計画として若い人の声が少ないなということであれば、そのあたりを補う何らかの方法を考えるのも手だろう。もうひとつは、福祉関係者や事業者には子ども関係の取り組みをしている人もいるので、そのあたりの意見を確認したうえで次期計画に反映させるという形で考える方向になるだろう。

・いずれにせよ次の調査を行う際には年齢構成がうまくいくような仕掛けを検討するようにしたい。

【事務局】

・今回のアンケートの実施方法についてはＢ委員の指摘の通りだが一点補足すると、対象者18歳以上を対象に年齢の割合を振り分けて配布を行ったが、当然０～17歳には送付していないので、その分の年齢割合の配分を、18～29歳と30～49歳に半分ずつ上乗せする方法を取った。ただ、結果的には回答は少なかったがなるべく若い人の回答をいただきたいという思いで実施しているので、また次回調査時にはどのように実施するか、意見をいただきながら検討したい。

【Ｃ委員】

・市民アンケートだが、回収909とあるが、すべてが有効回答とされているが性別や年齢をみると無回答がいくらかある。年齢や性別が無回答のものを有効回答数としているがそれは問題ないのか。

【事務局】

・909件のうち属性に無回答がふくまれる点については、特に特徴があるのは性別だと思うが、段々と性別を回答したくないという人が増えており、基本的にはアンケート調査時には属性を尋ねはするが、書いてある性別についてもあくまでも自己申告であるため、本当に正しいのか確認出来ない点や、属性が無回答であっても、以降の設問に対してしっかり回答していただいているものについては、属性分析できないから省いてしまうということではなく、折角回答をいただいたのでそれを受け止めたうえで、無回答を含むそのなかでの結果だと考えていただければと思う。

【Ｃ委員】

・職業について、“無職、家事専業など働いていない人”とあるが、家事を仕事と考える人もいると思うのだがその点はどうなのか。

・また、学生もアルバイトをしているケースもあると思うが、それは無職になるのか。

【Ａ委員長】

・有効回答について補足すると、有効回答の考え方は非常に厳密な考え方もあるが、調査の目的に応じて考えていく場合もある。今回の場合、性別を聞かないであるとか、その他であるとか、そういったケースも出てくるので、すべて省いてしまうとクロス集計時などにほとんど分からなくなってしまうので、そこはひとつひとつ解釈しながら進めるという手

もある。今回は厳密な学術調査ではなく市民アンケートなので、そのあたりは御了解いただきたい。どうしてもおかしいというのであれば、この場で確認し別の対応になってくるが、考え方としてはあり得るものだという点は述べておきたい。

【事務局】

・職業については、ご指摘の通り家事専業として仕事をしているという人もいると思うので、コメントの表記を改めたい。

【Ａ委員長】

・この辺りは次回調査時などにも検討する部分だと思うが、今分かる段階で修正しておいていただき、次回につなげられるようにしたい。

・この結果が今後の計画での課題になってくると思うが、たとえば近所づきあいをしている人の数が減っていることや、福祉サービスの利用などでは利用者からの依頼に提供できなかった事業者が67%、高齢者分野でいえば81%になる。市内で不足している福祉サービスがあるという事業者が40%など、かなりきっちりした回答として出てきているので、このあたりを次期計画に載せていくことになるので、みなさんも気になる点はチェックしておいていただきたい。

・では次の議題に移りたい。

〇事務局より第３期地域福祉計画の総括について資料説明（PDF）

【Ａ委員長】

・第３期の計画総括が必要だという意見などもあったので、それを受けて事務局なりに総括をしていただいたものだ。何か意見等あればどうぞ。

【Ｂ委員】

・20ページ、子ども安全見守り隊について記載があるように高齢化が進んでいる。教育委員会にたずねると、会員が16小学校区でＰＴＡや保護者、ボランティアの見守り隊などを合計すると登録100名以上となっている。しかし実際は各校区多少の変動はあるが、毎朝、20名前後で通学路等で活動している。

・このような16校区のなかで悩みや問題が生じた際に、どのように対応しているかを集まって話ができるような協議会をつくるように教育委員会へ要望を出しているが、一向に前進的な回答を得られていない。よいことばかりではなく、こうした面も計画に記載していただきたい。

【Ａ委員長】

・具体な指摘だと思う。この資料は事務局が整理した回答となるので、今委員からそうした指摘があったこともしっかり示し、できるだけ広い範囲で共有できるようにしたいと思う。

【Ｄ委員】

・総括の仕方について意見だが、やはり市役所で総括する場合は各事業ごとに担当課が評価する形になると思う。市民の視点からすると、今非常に課題が複雑化しひとつの事業では解決できない複合的課題が増えているなかで、各事業ごとにバラバラにされた総括になってしまう。

・たとえば、基本目標があるが、これは最終の目標でもあると思うので、まず、実際にそれらが相対的にどれだけ進んでいるのかがあり、それに対して各々の事業がどれだけ貢献したのかという総括の仕方もあるのではないか。市民目線では各課がバラバラにやっても全体像がなかなか見えてこない。これから複合的課題が山積し複雑化しているなか、まず総括の仕方、アウトカムを出し、それに向けてどれだけ進んでいるのか、それに対してそれぞれの事業がどう貢献したのか、そういった方法もあるのではないか。

【Ａ委員長】

・今回はまず評価する点としては、これだけ包括的な総括をしたのははじめてだと思うので、そこから先としては、意見にもあるように市の担当部局を中心にやっていただいた総括なので、委員会としては、これをもとにしてどうなのかといった具合に、先ほどもＢ委員からの意見のような形で議論を深め、次期計画に反映させていくという方向になるだろう。

・現段階で全体のアウトカム評価ができればいいが、地域福祉の場合、非常に難しく、例えば介護保険などはかなりそうした方法は有効だが、地域福祉は包括的になるため、評価の仕方も今回が第１段階として、第２段階ではそのように的確に評価していけるようにしていこうという、そういった指摘として受け止めたい。

・委員のみなさんには、行政評価に対して委員からの評価はこうだったという意見をいただければと思うので、貴重な意見として今後の評価についても更に考えていければと思う。

・私からも一点、増進型という雰囲気は出ていないなという感じを受けた。各セクションや担当部局の評価を見ても、確かに行政の立場としては、今の政策をどう展開していくかが重要なのでこれはこれできっちりしたところで重要だが、富田林の計画として何にこだわって来たのかが評価できておらず、そのあたりがもったいない。

・先ほどの担い手の話や校区担当職員の話など、そのあたりももっと次期計画ではきっちり主張していくことが必要だ。富田林市では一人ひとりの幸せを考えるような地域福祉をちゃんと作っていきますよと、そのためにこういう計画になっています、どうですかといったメッセージをもっとしっかり出さなければ、地域福祉に関わる事業はどんどん増えているので、その事業ができたかどうかの評価になってしまう。事業評価としてはありだが、地域福祉としては、その事業がいかに地域での幸せに繋がっているのかの観点からの評価が必要だ。これを目指していますよ、というメッセージを出していかなければ、何のためにやっているのか、その先が見えてこない。

・その意味では今回の評価は行政の出発点として非常に重要な点であり、富田林でやりたいのは増進型地域福祉であり、その実現のためにどのように事業を展開できるか考え、地域福祉計画は行政と民間が一緒になってつくるものであるのから、活動計画と別にはなっているが、一緒にやっていくという性格がある以上、そのあたりも評価できる形を意識していく必要がある。

・こうした点を考えさせられるので、非常によい総括だったと思っている。そのあたりをみなさんと共有し更に進んでいければと思う。非常にきっちり総括していただいているので大変な作業だったと思う。是非４期へ活かしていきたい。

【Ｅ委員】

・今回の取り組み状況への評価について、最初いただいたときは、今後どのように新しい地

域福祉計画に活かしていくのか難しいと感じた部分もあるが、事務局の方で地域福祉計画は国の動きも含めてこれまで以上に行政計画の位置づけが高くなってきていたり、行政総体として地域福祉を推進するということが出てきているなかで、地域福祉計画に関わる関連事業がどれくらいあるのかを担当課が中心になり各課に照会をかけ評価作業していただいたという点では、これまでの計画づくりにはなかったことであり画期的なことだと思う。

・ただ、これはタイトルであまり意味はないのかもしれないが、「地域福祉計画事業」と書かれており、これが地域福祉計画の事業になってしまうのではなく、関連事業というくらいの位置づけで、今後もこうした地域福祉に関連したさまざまな事業を行政としても積極的に進めて行くというような位置づけになるのではないか。

・地域福祉計画は地域生活者が基盤なので、生活圏域や学校区の住民生活に密着したボトムアップの観点が不可欠であり、住民自身が主役となり行政施策や専門職と連携しどのように進めて行くかがコアな部分なので、行政の事業は地域単位や市民対象の事業もあるが、基本的には生活圏域をベースにして組み立てていくものとは違う。そこをうまく統合していくのが地域福祉計画であり役割だと思うので、そうした統合していく視点や柱を第４期で打ち出していく時期になったのではないかと思う。

・その意味では地域福祉計画の総括となっているが、重点プロジェクトの総括がまだなので、重点プロジェクトの総括をやりつつ、次の重点プロジェクトとして新しい事業や取り組みを開発していくといった地域福祉ならではの大事さが出ていると思う。これは今の行政施策にないものをどうやってつくっていくかや、近くの人と密接に関わっていくのはしんどいという人が増えてくる時代の流れだとも思うし、同時に顔を見たら挨拶するとか災害時の手助けなどを求める今の富田林の市民の気持ちに即して地域福祉に関わり知っていくことはそれほどしんどい訳ではないといった点を校区交流会議などで追及しており、増進型の理念のもとで住民交流やプロジェクト、開発などが新たな重点施策につなげていかなければと思う。

【Ａ委員長】

・今も少し話が出たが、次の議題の校区交流会議についても説明を。

〇事務局より校区交流会議の開催状況について資料説明（PDF）

【Ａ委員長】

・残念ながら全校区での開催は出来ないがコロナ禍でも工夫していきましょうということになる。富田林校区、東条校区では実施できたとのことなので、どんな雰囲気だったのかうかがいたい。

【Ｆ委員】

・校区交流会議のメンバーとして、いろんな地域から参加しておりいろんな話を聞くことができた。また自分たちが住んでいる周りのこともこれまでより分かったと思う。われわれ活動している民生委員のことも話をしたりととてもよかったと思う。できればまた近いうちに開催していただきたい。

【Ｇ委員】

・東条校区で参加したが、ずっとリモートで会議は進めており、ロゴの作成やＴシャツが完成していたが報告できていなかったもののお披露目の機会とできたり、市長の動画も見せていただき、またいつ緊急事態宣言が出るか分からないので、今回は貴重な機会となったと思う。次回はまた９月にリモートで予定している。

【Ａ委員長】

・リモートの導入もしているということか。

【Ｇ委員】

・既に１年以上リモートで行っており、２か月に１回は会議を開催している。

【Ａ委員長】

・地域差もいろいろあると思うが、出来る形でそれぞれの地域のやり方で進めていただきたいと思う。地域と社協、行政の職員も関わってくるものになり、それらをもって行政では全体会議、庁内会議なども行う仕組みはつくってあるのだが、なかなかそこまで十分には機能できず非常に残念だ。

・ただ、そうも言ってられないのでこういうコロナ禍でもいかに取り組んでいけるかということについて、それぞれの地域で工夫を生み出す段階だと思う。

・ではみなさんからこれらについて何か意見はあるだろうか。

【Ｂ委員】

・構成員のなかに町会長の参加が書かれていないがどうなのか。他にいろいろなメンバーをそろえ広範な意見を聞けるような仕組みにしてはどうか。各参加が十数名ずつなのでこの人数は非常に少ないと思う。

・藤沢台地区でもリモートでこうした会を設置できるのであれば、やってもらえればありがたいのでお願いしたい。

【Ｋ委員】

・今回の交流会議はコロナ禍であり、まずは集まれればというところで考えていたため、予防対策のため15名までという選定となっている。

・たくさんであればいいという訳ではないと思うが、いろんな人、入ってもらうべき人に入ってもらえるように、各校区に社協の担当もついているので努力していきたい。画一のメンバーではなく、その校区で必要なメンバーが必要数入ってもらえるように努力していきたいと思う。

【Ａ委員長】

・意見にもあったように、例えば町会長であったり、例としてあくまでも示して、地域に応じてさまざまな人、事業者などももっと入ってもいいだろう、有志の人などもいいかもしれない。人数制限がなければそうした形も可能だろう。

・また、今回の報告でも感じたが、校区交流会議という名称が味気ないところがあるので、各校区ごとに好きに夢と希望があふれるような名称など、それぞれの校区交流会議を育てていってもらえればと思う。

【Ｈ委員】

・うちの学校では小学校で夢育というのを行っており、空き教室２つを地域の人が集まれる場所とし、地域の写真家の写真を展示しコロナが明ければ、いつでも地域の人と交流でき

る場所として設置している。

・また、今富田林市が未来都市富田林ということで内閣府からSDGs未来都市に選定されたことで、各小学校でもSDGsパートナーということで、これからは未来の子どもたちに2030年の目標に向かって活動していくという一般の企業も集まってきている。そのなかで、貧困をなくそうであるとか、質の高い教育など項目があるが、11番に「住み続けられるまちづくりを」という項目がある。この項目は増進型地域福祉のど真ん中なのではないかと思う。たとえば第４期計画のなかでこれをテーマとし、「住み続けたいまちづくり」というのぼりを市内に立てれば相当な勢いでみんなの眼が開くのではないかと思う。

・今いろいろな市の縦割り行政のなかでいい活動がたくさんあるにも関わらず形にならないのはどこからきているのかというと、大きな目標が見えにくくなっており、サービスを受けさせてほしいということばかりではなく、まちに朝立ってもらうだけでも顔見知りになり災害時等に助けてもらえるようなＷＩＮ－ＷＩＮの関係ができやすいと思うし、「あそこのおっちゃん知ってるよ」というような子どもたちがいかに育っていくかが重要なのではないか。次期計画とこれがジョイントするかは分からないが、この大きなうねりのなかでこれを活用しない手はないと思っている。

【Ｂ委員】

・今の意見を聞いて思ったが、子ども見守り隊も校区交流会議に入れていただきたい。また、子どもの安全・安心を守るという点では警察も巻き込んで一緒に校区交流会議を開催するのが望ましいと思う。

【Ｉ委員】

・アンケート結果にもあったように、活動者と市民で考え方にギャップがあるのではないかと思う。近所づきあいや地域の状況のなかでも報告されているが、町内の交流が希薄になっている。そういう点からすれば、校区交流会議も各地域の町会集会所などを借りて会議を移していくなどし、地域の人を巻き込む形の方が地域へのＰＲにもなるのではないか。

【Ａ委員長】

・現在は校区という単位なのである意味広い範囲で行っているが、もっと市民を巻き込むのであればもっと身近な町会レベルでやるべきではないかという指摘だと思う。そのあたりは行政担当部局や社協などで、今はコロナもあるので検討していきたいところだ。

【Ｄ委員】

・アンケート結果でも校区ごとの違いがかなり出ていると思うので、その違いをどう反映していくか。第４次計画に校区交流会議が重点課題として入っているので、ボトムアップという話もあったのでこの調査結果を交流会議でも明らかにし、何で自分の校区ではこうなのかという検証を行い発見することが大事だと思う。校区の特徴をつかむような、そういった取り組みを行い第４次計画に反映させるのも手ではないか。

・新堂校区では６月27日に校区交流会議と並行しまち歩きスタンプラリーを実施し、延べ900人ほどが参加した。コロナのなかでもできる取り組みということで、あまり集まらず分散的に、いろいろな商店などの協力も得て非常に盛況だったため、コロナのなかでもできるのではないかという議論も進めている。コロナ禍でも工夫すればやれることも結構あると思うのでそのあたりも議論できればと思う。

【Ｇ委員】

・先ほど愛称の話が出たが、校区交流会議というのは子どもにとっては難しい名前だということで、東条校区ではロゴを作成し、配布物にはすべてロゴを入れており、子どもたちにはこのマークがあれば交流会議の活動なので参加してもらうよう促すために、ＰＴＡの保護者などにも声をかけ、コロナ禍でもできることということでロゴを募集し最優秀賞には市長から表彰をしてもらうなどした。

・ロゴをもとにＴシャツやのぼりを作成し、イベント時には活用できるようにしている。

【Ａ委員長】

・いろいろな動きが生まれていると思う。担い手がないという全体的な状況があるなかでも、いろいろなアイデアが出てきていると感じる。

【Ｊ委員】

・校区交流会議で進めて行くと思うが、社協の『はなみずき』という団体に所属しており、市で開催される認知症のつどいなどに聞こえない人への支援をしている。交流会議にはいろんな人が参加できるような場となるようにという話が出ていたが、聞こえない人や認知症の家族なども一緒になって進めていければと感じた。

【Ａ委員長】

・一般的には難しいといわれるだろうが、一番重要なところだ。地域福祉は楽しくやるのは当然だが、すべての人が参加できるように配慮していくことも当然のことだ。その際に地域だけではいろいろ資源が足りないこともあるので、そのときのために社協や行政職員がいるのでどのようなサポートが出来るかは一緒に考えながら場をつくっていきたい。

・そこへ行けば福祉の会議というのはこうやってやっていくのか、これが福祉かといった感じで、みんなが参加できる場が福祉なのだと分かることが重要だと思う。

・では次の議案に移りたい。

〇事務局より第４期地域福祉計画（素案）作成に向けて説明

【事務局】

・素案を作成していくなかで本日のみなさんからの貴重な意見、またアンケート調査結果や校区交流会議での意見、また市としては行政計画という位置づけでいえば国が進める施策などさまざまな側面から富田林として取り組むべきことを整理しながら、これから素案を作成していきたいと考えている。

・そのうえで、基本的には第３期計画の柱を継承しながらも、たとえばアンケート調査でも市民、関係機関からのニーズが高かった「気軽に相談できる人や窓口の充実」については、相談体制の充実に向けた取り組みに併せて国が進める狭間のニーズ、８０５０問題や引きこもりに対する連携による支援、いわゆる重層的支援体制整備の事業実施に向けた検討や、子どもから高齢者、障がい者などすべての市民が安心して生活できる地域づくりに向けて校区交流会議の発展や、市民や関係機関への増進型地域福祉の認知度を高める普及・啓発活動をしたいと思う。

・今回活動計画の会議でもお知らせしたが、小野先生のＤＶＤを市のウェブページにアップ

ロードしており、増進型地域福祉のページから閲覧できる。先週から公開しているが、早速窓口に来た事業所の職員からあれを見て校区交流会議に参加したいといった話が出るなど、こうした増進型地域福祉とはどういうものかというメッセージを市としても広めていくことは重要だと考えている。

・また、地域活動を担う住民の高齢化や担い手不足への対応も非常に重要だと考えている。

・成年後見制度はアンケート調査結果でも年齢が高くなるにつれ利用について消極的であることや、一方関係機関の50％が必要性を感じており、成年後見に関する取り組みも重要になってくる。また、保護司との懇談会を実施した際にも、地域に罪を犯した人が帰って来た際に就職することが非常に難しいことなど、再犯防止に関する取り組みも個別的な施策としては必要性を感じている。ほぼ毎週のように報道がなされているが、ヤングケアラーへの支援について全国調査や、大阪府内の高校生への調査も実施されるということで、本市内でも連携体制を構築しているところだ。

・意見にもあった第３期計画の３つの重点プロジェクトの総括については、まだ現時点ではできていない。地域福祉計画と活動計画の両方に関わる部分であるので、今後市と社協で協働で総括し、後日全委員に総括した資料を送付したいと思う。そのうえで文章による意見をいただき、これからの素案のなかで反映していければと思う。今回、総括を行い、令和２年度で市の予算事業全体で455あるうち188事業が地域福祉に関わっているということで、全体の40％ほどが市の事業のなかで関わっているということになる。非常に裾野の広い部分であり、これまでもあまり進捗管理ができていなかったことを非常に反省しており、今後の評価の仕方、総合評価を導入するのかなど、第４期の計画のなかでどういう評価をしていくのかを予め設定しておかなければならないと考えており、検討を進めたいと思う。

・最後に、認知症の人の話が出ていたが、地域には認知症の人や外国人、いろんな人が住んでいる。やはり地域福祉というのは住民のための福祉であるので、やはりいろんな人が参加できるような福祉活動や校区交流会議というものをこれから発展させていきたいと感じている。

【Ａ委員長】

・今後素案が出てくるということなので、その段階でまたみなさんから意見をいただくことになる。何か意見があれば随時伝えていただければと思う。

【Ｅ委員】

・今後の素案に向けての提案だが、重点プロジェクトについては一定取りまとめたうえで委員から意見をということだが、やはり時間的な限界もあり今回の委員会でも十分に意見を言えたかというとそうではないと思う。いよいよ次に素案が出てきてその後１回程度検討しまとめるという流れになるので、提案だが、今の時点で委員のみなさんから何でもいいのでアンケート結果や総括などについてもふくめ、次期計画に盛り込みたいことや重点プロジェクトで取り組むべきことなどについて意見を書面でいただき、次の素案づくりに活かしてもらうことが必要ではないか。９月の半ばあたりを目途にしてまとめてみてはどうか。

【Ａ委員長】

・よいと思うのでそうしたい。書式等があるのであれば事務局で用意していただき、自由に

意見をお願いしたい。

・では全体を通して何かあるだろうか、ないようであれば事務局よりどうぞ。

【事務局】

・長時間に渡る議事進行、また貴重な意見をありがとうございました。オンライン会議という発言の難しい状況だったかと思うが、いただいた意見は今後の素案に向けた計画策定にも活かしていきたい。

・今後については今議論にもあったように、９月中を目途に意見をいただけるようにこちらから何らかの書面をお送りするので、積極的な意見をお願いしたい。

・本日は以上としたい。

（以上）